

主 催 者 挨 拶

齋藤十郎 地球環境行動会議（GEA）会長

（2011年10月14日 開会式主催者挨拶）

本日は皇太子殿下の御臨席を仰ぎ、また野田佳彦内閣総理大臣をはじめ、細野環境大臣など関係閣僚にも御出席を賜り、GEA 国際会議を開催できますことは誠に光栄であり、主催者を代表して会議開催にご尽力いただいた関係各位のご努力にあらためて厚く御礼申し上げます。

はじめに、このたびの東日本大震災に被災され、また避難生活を余儀なくされている皆様に心からお見舞い申し上げます。今回の大震災は原発事故という未曾有の災害までもたらし、放射能汚染対策が復旧・復興の大きな足かせとなっています。地球規模での環境汚染を引き起こしかねない原発事故は、日本国内問題にとどまらず危機感を世界が共有する国際問題です。この意味から世界の地球市民全てにご心配をかけていますことを誠に申し訳なく存じております。また、大震災被災地のみならず、原発事故に対しても早期に温かく力強い国際支援を頂戴したことに対し、日本国民の一人としてあらためて感謝申し上げます次第です。

今回の GEA 国際会議は「復興を通じた持続可能な社会づくり～日本の再生を世界と共に」をテーマにして、内外から関係部門の有識者をお招きしています。2 日間の会議を通して活発に議論をしていただき、このたびの大震災を契機に真に豊かな生活とは何かを国際的な視野に立って考え、新生日本の今後のあるべき方向を示して頂ければ幸いです。

もちろん議論のみに終わらせることなく、会議の成果を有意義な政策提言や実効性高い施策として具体化させることに、GEA としても努力をしていきたいと存じます。

今回の会議において実り多い議論が交わされますことを期待して主催者代表の挨拶とさせていただきます。

細野豪志 環境大臣

(2011年10月14日 いきものにぎわい企業活動コンテスト表彰式挨拶)

GEA 国際会議 2011 の開催、本当におめでとうございます。まず、このコンテストの話に入る前に、今日お集まりの皆さんには 3.11 以降、本当に温かいご支援・ご協力をいただいていることを感謝申し上げたいと思います。また、今回は海外からも多くのお客さまをお迎えしておりますが、さまざまご協力・ご支援をいただいていることに重ねて感謝を申し上げたいと思います。

GEA の皆さんはこれまで政界、財界、そして学界のそれぞれの立場から環境についてしっかりと行動していく流れをつくっていただいた、まさにリーダーとしての活躍が認められてまいりました。今回、特にテーマとして「復興を通じた持続可能な社会づくり」を掲げていただいたことは、環境省としては非常にありがたいと思っております。もちろん原発問題も含めてこの日本が抱えている課題を、われわれは世界の英知を結集して必ず乗り越えなければならないわけですが、そのときに持続可能性ということをしかりと念頭に置いて、しっかりと一歩一歩、歩みを進めていく必要があると考えております。今日の会議を通じて、恐らく様々なご示唆をいただけるものと考えておりますので、それをしっかりと生かした形でこれから努力していくことを、この場を借りてお約束申し上げたいと思います。

さて、これからコンテストの表彰に入るわけですが、私どもにとりましては、昨年愛知会議で生物多様性について非常に大きな一歩を踏み出しました。その日本において企業としてご努力をされている方、また市民団体としてご努力をされている方、そういう方々をしっかりと評価することができる素晴らしい機会だと考えております。

今回、環境大臣として表彰いたします企業活動は 2 件あります。1 社目はトヨタ自動車株式会社の皆さんです。これはもう日本中でよく知られていることですが、トヨタの皆さんは長年にわたり「白川郷自然学校」の運営を通じて、白山国立公園のさまざまな環境保全に努めてきていただきました。トヨタの皆さんのこれまでのご努力、そしてご貢献に、心より感謝を申し上げたいと思います。

2 社目としましては、サントリーホールディングス株式会社で取り組んでいただいております「天然水の森」と呼ばれる森林の整備や愛鳥活動をはじめとした活動です。こちらについては特に子どもたちの環境教育に大変力を入れていただいていると伺っております。本当にサントリーホールディングスの皆さんにも心より感謝を申し上げたいと思っております。環境大臣としてはこの 2 社の表彰ですが、そのほかにも多くの皆さまがこうした分野でご活躍いただいて、今日、表彰されるということですので、そうした皆さまの一人お一人、一社一社に対して心より感謝を申し上げたいと考えております。

これから 2020 年までの 10 年間は「国連生物多様性の 10 年」と定められており、我が国としてもしっかりとそうした目標を視野に置いて活動していかなければなりません。今回受賞された皆さん、さらには今日ご参加の皆さん、すべての皆さんに、ぜひこうした活動にお力添えをいただけますよう、心よりお願い申し上げます。

最後になりますが、こうした活動を通じてますます我が国において、さらには世界全体で生物多様性に対する理解が広がること、そして何よりもこの GEA 国際会議 2011 の成功をお祈り申し上げまして、挨拶に代えたいと思います。本日はおめでとうございます。

筒井信隆 農林水産副大臣

(2011年10月14日 いきものにぎわい企業活動コンテスト表彰式挨拶)

いきものにぎわい企業活動コンテスト表彰式に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。今日、受賞される皆さん、本当におめでとうございます。心からお祝いを申し上げます。特に農林水産大臣賞を受賞される滋賀銀行の皆さん、そして北海道漁協女性部連絡協議会の皆さんには、あらためてお祝いを申し上げます。

もちろん農林水産大臣賞受賞者のみならず、今、細野大臣から話がありましたように、今日、受賞される皆さん全体が生物多様性の保全や持続可能な社会のために今まで積極的な活動をしてこられたことに、心から感謝を申し上げます。

農林水産業は自然の中で自然の法則に従い、自然と共存しながら生産活動をしなればなりません。ですから、農林水産業の存在自体が、生物多様性や持続可能な社会形成のために必要なことだと確信しております。持続可能な農林水産業の存在自体が、生物多様性と持続可能な社会の形成のために大きく貢献しているとも確信しているところです。

今年は国際森林年です。森林・林業の目的は、材木の生産や林産物の生産も重要ですが、もちろんそれだけではありません。以前はそれが大きな目的というように認識されておりましたが、今はさらに森林の存在自体が自然環境維持・保全、そして地球環境、温暖化の防止に大きく貢献していることも認識されており、農水省としてはそちらの方の目的や貢献を主要な柱として位置付けて取り組んでいるところです。

東日本大震災で被災された皆さんに心からお見舞いを申し上げます。同時に、被災した地域はまさに農林水産業が盛んな地域でした。あの地震や放射能事故によって、農林水産業が大きな被害を受けただけでなく、まさに自然環境自体が大きな被害を受けました。これからの復興は、農林水産業の復興だけでなく、まさに自然環境の復興につながる、それとイコールであるという意識で、今、全力を挙げて取り組んでいるところです。

先ほど IRENA のアミン事務局長のお話を聞いて、復旧・復興とは単に以前に戻すことではなく、自然環境を保全するという新しい要素をさらに発展させて取り組んでいかなければいけない、その一つの大きな柱として再生可能エネルギーを復興の中できちんと位置付けていくことが必要だということを、あらためて確信しました。

農林水産省は、今後とも皆さんと一緒に、今申し上げたいろいろな課題に取り組んでいくということを申し上げて、挨拶とさせていただきます。今日は大変おめでとうございます。

城井崇 文部科学大臣政務官

(2011年10月14日 昼食会挨拶)

文部科学省を代表して一言ご挨拶申し上げます。

本日は、地球環境問題に対して高い意識を持ち、また具体的に行動されている内外の著名な皆様のご参加を得て意見交換の場を持つことができましたことを、誠に喜ばしく思います。

ご承知のとおり、我が国は、本年3月の大地震とそれに続く津波により、東日本を中心に甚大な被害を被りました。また同時に東京電力福島第一原子力発電所も大きな被害を受け、現在も事故の収束に向けた努力を継続しております。この国難とも言える被害に対し、震災発生直後から現在に至るまで、世界中の方々からの暖かいご支援を賜りました。国民を代表して御礼を申し上げます。

また、世界中からのご支援に報いるためにも、我が国は地震、津波そして原子力発電所による被害からの復興を成し遂げなければならないということを、本日改めて強く感じた次第です。

我が国は、今後の我が国の成長の柱として、「新成長戦略」において、「グリーンイノベーション」と「ライフイノベーション」を据えておりましたが、本年8月の第4期の「科学技術基本計画」においても、「グリーン」・「ライフ」の2大イノベーションの推進に加え、「震災からの復興・再生の実現」も掲げました。これを受け文部科学省としても、科学技術と教育・人材育成の両面から、震災からの復興と再生に向けても最大限の努力を行っていく所存です。

この復興と再生に向け、文部科学省として、地球の状態を正しく評価する気候変動予測及びそのリスク評価や、再生可能エネルギー導入に向けた研究開発等を通してグリーンイノベーションの推進に貢献していきたいと考えております。このような取り組みを通して、広く世界に通用する新しい持続可能な社会の構築を日本で実践することを通して、これまで世界中から頂いたご支援に対して恩返しをしたいと考えております。

最後に、本会議が、復興を通じた持続可能な社会づくりについて議論を深め、日本の再生を通じて世界と共に行動していくための大きなステップとなることを期待しております。また、会議の開催に御尽力いただいた斎藤十朗会長をはじめとする実行委員のメンバーの方々、広中和歌子事務総局長をはじめとする事務局の方々に敬意を表しますと共に、ご参加いただいた皆様に心から御礼を申し上げて、私の挨拶といたします。

北神圭朗 経済産業大臣政務官

(2011年10月14日 昼食会挨拶)

GEA 国際会議 2011 の開催に当たり、一言御挨拶いたします。

3月11日に発生した東日本大震災に際し、これまでに、世界中から心温まるたくさんの励ましと支援を頂きました。改めて深謝申し上げます。

今回の震災、特に東京電力福島第一原子力発電所事故を受けて、政府全体として、エネルギー政策の見直しに着手しております。今月始めから、来年夏を目処にエネルギー基本計画を策定すべく議論を開始したところです。

今後、国民の皆様が安心できる、中長期的なエネルギー構成の在り方について、国民各層の御意見を幅広く伺いながら検討していく所存です。また、温暖化対策もエネルギー政策の見直しと表裏一体のものとして検討してまいります。

今回のテーマである復興を通じた持続可能な社会を実現するためには、その根幹となる強靱なエネルギー・システムの構築が鍵となります。

中でも再生可能エネルギーは、持続可能な社会の実現に不可欠です。我が国としても、復興のためだけでなく、世界的な低炭素社会実現のために、再生可能エネルギーの活用を推進してまいります。

午後のセッションでは、「再生可能エネルギーを中心にした活力のある低炭素型社会の実現」について議論がなされると伺っております。実りある意見交換がなされることを期待しております。

最後に、本日お集まりの皆様方のますますの御健勝と御発展、そして GEA 国際会議 2011 での議論が持続可能な新しい経済社会の実現への道筋となることを、心から祈念いたしまして、私の御挨拶とさせていただきます。

山根隆治 外務副大臣

(2011年10月14日 歓迎レセプション挨拶)

ご列席の皆様、GEA 国際会議 2011 の開催に際しまして、皆様をお迎えできますことを、大変嬉しく存じます。皆様におかれましては、お忙しい中ご出席を賜り、また遠く海外からもご参加頂いた方々に厚く御礼申し上げますとともに、心より歓迎申し上げます。

GEA は、地球環境問題について様々な視点から自由闊達に議論がなされる貴重な場として、大きな意義を有していると承知しております。私ども外交当局といたしましても、これまで多くの貴重なご示唆を頂いてまいりました。

皆様すでにご存じの通り、我が国は、本年3月に、東日本大震災という未曾有の災害を経験しました。その際、各国からあたたかい御支援と励ましのメッセージを頂いたことに、この場をお借りして、心より御礼申し上げます。

この大災害により、今もなお多くの被災者が困難な生活を余儀なくされています。急務の課題である復興のプロセスにおいて、中長期的に持続可能な社会をどのように構築していくのかという難しい課題に、私たちは直面しています。

折しも、来年6月にリオデジャネイロで、「リオ+20」が開催され、グリーン経済への移行、及び持続可能な開発の実現について話し合われます。日本政府といたしましても、今回の GEA 国際会議に参加される国内外の皆様の貴重なご意見や、各国の取り組みをぜひ参考とさせて頂き、人にも環境にも優しい社会づくりを目指し、リオ+20において、我が国の復興のための取り組みを報告したいと考えます。

今回の GEA 国際会議では、世界の有識者及び専門家の参加を得て、2日間にわたり活発な議論が行われると承知しております。この会議の成果が、我が国から世界に向けた貴重なメッセージとなることを確信し、私からのご挨拶とさせていただきます。